

日本語能力試験とは？

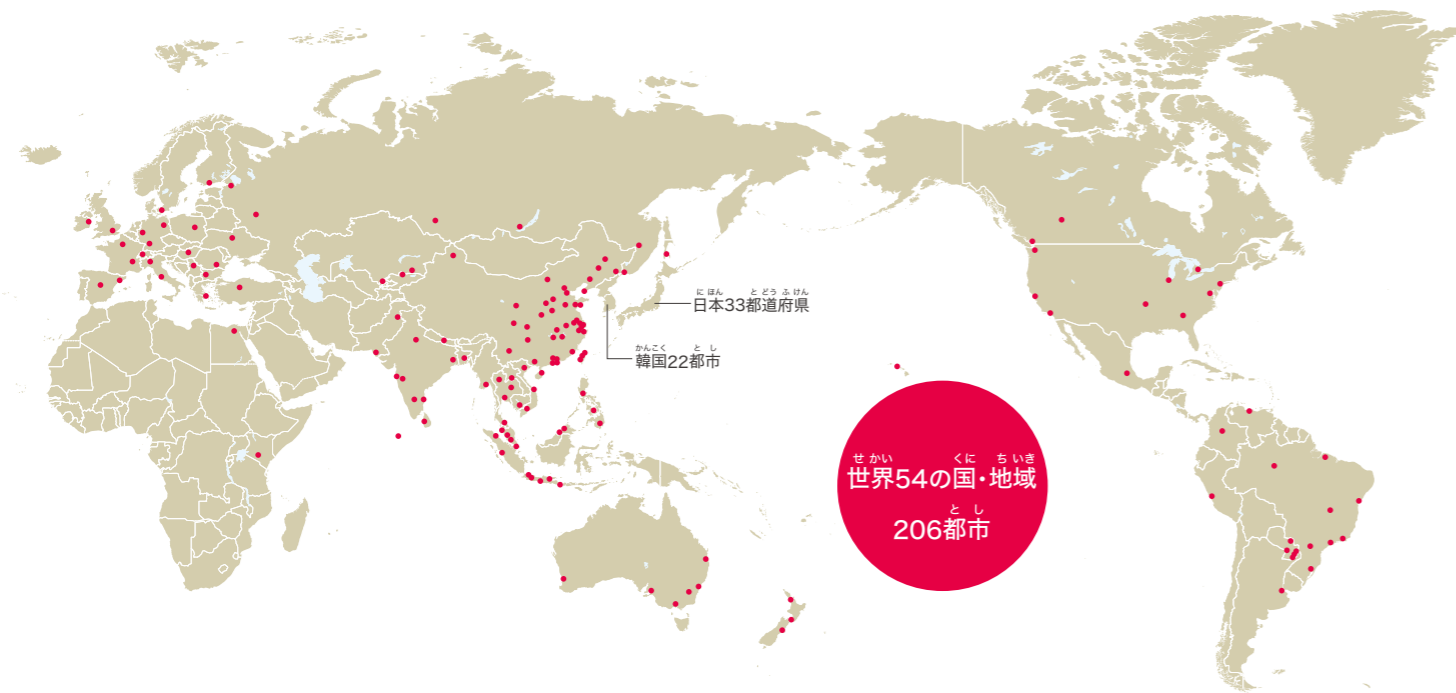
世界最大規模の日本語の試験です

日本語能力試験は、原則として日本語を母語としない人を対象に、日本語能力を測定し、認定するための試験です。試験は日本国内そして世界各地で、1年に2回、一斉に実施されます。

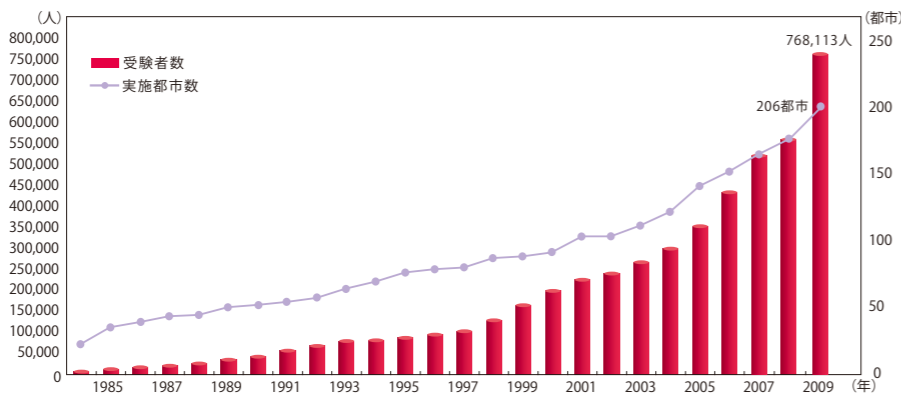
日本語能力試験は1984年に始まりました。このときは、世界15の国・地域で約7千人が受験しましたが、2009年には、世界54の国・地域で約77万人が受験しました。現在、世界最大規模の日本語の試験となっています。

※日本語能力試験は、2008年までは12月の年1回でしたが、2009年からは7月と12月の年2回となりました。ただし、海外では、7月の試験は行わないで、12月の試験だけを行う都市があります。

●日本語能力試験の実施都市(2009年第2回(12月)試験) ●実施都市



●受験者数・実施都市数

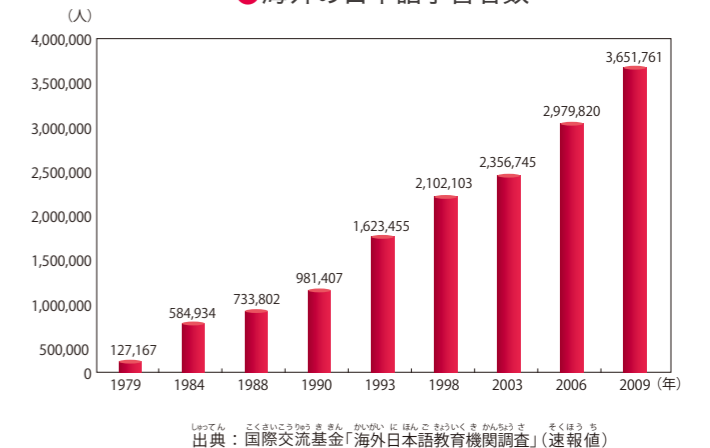


さまざまな目的のために役に立つ試験です

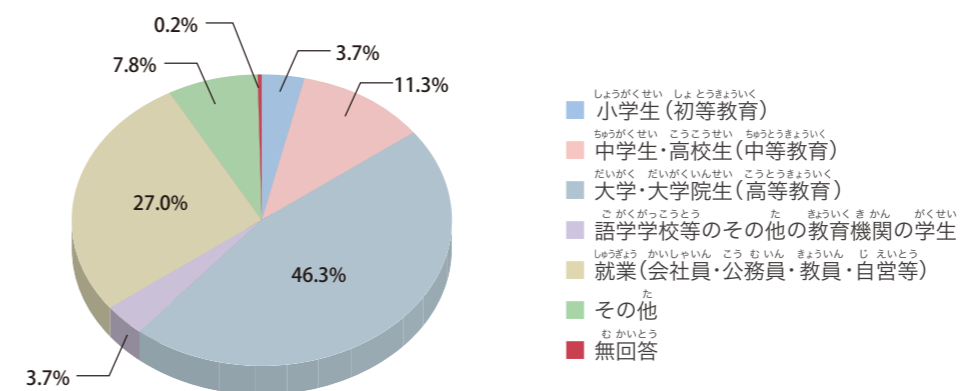
国際交流基金が3年ごとに実施している「海外日本語教育機関調査」によると、海外の日本語学習者数は、1979年には約12万7千人でしたが、2009年には約365万人になりました。

日本語学習者数が増えると共に、日本語能力試験の受験者数も増えました。現在では、小学生から社会人まで、さまざまな年齢の人が日本語能力試験を受験しています。また、日本語能力試験は、実力の測定だけでなく、就職・昇給・昇進、資格認定への活用など、さまざまな目的のために活用されています。

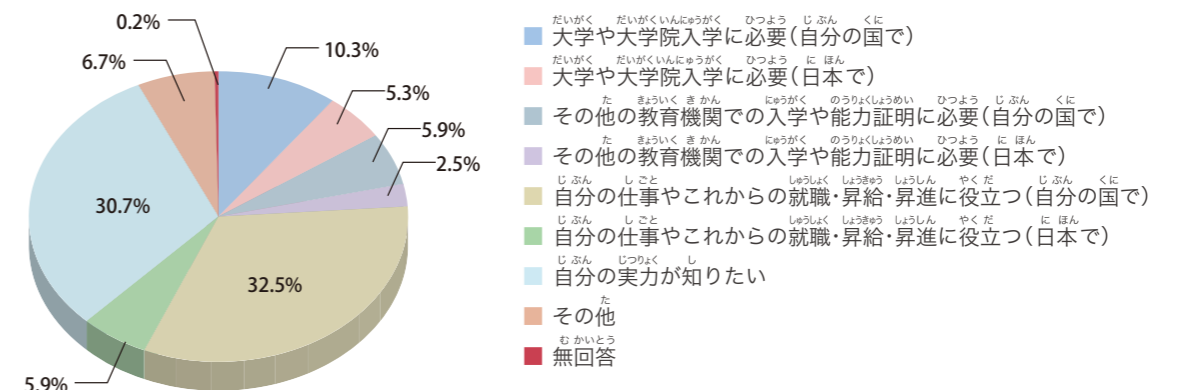
●海外の日本語学習者数



●受験者の内訳



●受験の目的



※回答者：2009年第2回(12月)試験の海外の受験者(有効回答者数423,961人)。国際交流基金が実施した海外52か国・170都市が対象。